



## ◇雨が多い季節の洗濯物◇

今年の夏は、極めて異常な暑さが続きました。9月になっても猛暑が続き、秋らしさもなく、10月に入りようやく秋っぽい気温になりました。

私達の日本は、世界的に見ても珍しいくらいに季節の移り変わりがあります。そして季節ごと、夏には夏の、冬には冬の過ごし方があります。

その過ごし方で難しいのが寒暖差の大きい梅雨や、秋ではないでしょうか。

6月は雨が多くジメジメしているイメージがあります。しかし、気象庁のデータを見ると、1年で最も雨の多いのは梅雨の6月ではなく9月だそうです。地域によっては10月も2～3番目に雨の多い月とのこと。

この6月、9月、10月の洗濯物は、どうしても室内干しが増える季節でもあります。また、最近ではランドリールームといった室内干し用のスペースを設けている家も増えてきています。

冬の長い北海道や、雨や雪の多い日本海側に暮らす方々は、以前より室内干しが当たり前なのではないでしょうか。

雨が多く湿度の高い中で、さらに家の中で洗濯物を干すと、気が付けば家中カビだらけなんてことになってしまいます。

そこで必要となってくるのがエアコンのドライ運転（除湿運転）です。

## ◇エアコンのドライ運転について◇

室内干しの際には、除湿器を使う方もいると思います。しかし、除湿器はほとんどの機種がタンク付きです。その為、タンクに溜まった水を定期的に捨てなくてはなりません。最近はそのタンクも大型化しつつあります。大きいと捨てるために運ぶのも重たくて大変です。

そこでエアコンを上手に活用することをお勧めします。エアコンの場合は除湿器と異なり、初めからエアコン内に溜まった水は外に排出するような構造になっております。

このエアコンの除湿運転は、大きく分けて2パターンが存在します。

その一つが「弱冷房除湿」と言われる方法です。この除湿運転は読んで字のごとく、弱い冷房運転で除湿する方法です。

構造上エアコンで冷房運転を行うときは、冷気を出すと同時に除湿も一緒に行っています。当然ながら除湿目的で運転してしまうと、どんどん気温が下が

るので、弱冷房で運転しながら湿気を取るのが「弱冷房除湿」です。

欠点としてはあくまで冷房運転の延長線上の為、取り入れる空気、つまり室内の温度がある程度高くないと湿気を回収できないことです。6月初旬や、10月といった秋の季節ではあまり湿気が回収することが出来ません。

もう一方の除湿運転の方法が「再熱除湿」と呼ばれる方法です。

この「再熱除湿」は、「弱冷房除湿」と違い、エアコンの熱交換器と呼ばれる部分を冷房と同じようになりかなり冷やし湿気を回収します。ただそのまま冷たい空気を室内に入れると不快ですので、この空気を温めてから室内に戻すといった除湿運転です。当然「弱冷房除湿」より効率よく湿気を回収します。

しかし、冷やし、また温めて室内に戻すのでその分の電気料がかかります。

この2つの除湿方法は、各エアコンメーカーさんによって様々な呼び方がありますが、多くはこの2つの除湿方法になります。

また「再熱除湿」機能が付いているエアコンの多くは、上位機種についていることが多いです。

秋や梅雨にドライ運転をしてもなかなか洗濯物が乾かない、またジメジメしているといった場合は「弱冷房除湿」のエアコンかもしれません。

同じ除湿運転でも生活スタイルによって対応できる機種を検討されることをお勧めいたします。

## ◇エアコンの臭い対策◇

よく問題になる、エアコンからの臭いの原因は「カビ」が殆どです。

エアコンの冷房や除湿運転では、室内機内部で空気が冷やされ結露するため、湿気がこもりやすく、カビが発生しやすい状態になっています。そのまま放置しているとどうしてもカビの温床となり、臭いの原因となります。

既に臭いがする場合は、エアコン清掃業者に依頼、もしくは自己責任のもとエアコン清掃キットを購入して清掃する必要があります。

その後、冷房や除湿運転後は、「内部クリーン」や「過熱除菌」といった機能を使用することをお勧めいたします。

この機能では、湿ったエアコンの内部を乾燥させ、カビの発生を抑制することができます。

「内部クリーン」「過熱除湿」の設定方法は、機種によって異なりますので、お持ちの取り扱い説明書をご確認ください。(※この機能はエアコン内部の乾燥を優先するため、お部屋の温度が約2～3℃上昇と、湿度があがることもあります)

快適健康な暮らしの為に、エアコンの持つ機能を利用してください